

2019年12月23日

トヨタ自動車株式会社

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

あいおいニッセイ同和損保とトヨタ、コネクティッドカーデータを活用する 事故対応サービス「テレマティクス損害サービスシステム」を開発

—2020年3月よりサービス提供を開始—

トヨタ自動車株式会社（代表取締役社長：豊田章男、以下トヨタ）とMS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉 恭三、以下あいおいニッセイ同和損保）は、コネクティッドカー^{※1}から取得できる走行データを活用し、事故時の運転軌跡や運転挙動といった運転状況を可視化するとともに、AIを活用した事故検知を実現する新しい事故対応サービス「テレマティクス^{※2}損害サービスシステム（以下、本サービス）」を共同で開発しました。トヨタとレクサスのコネクティッドカーを対象^{※3}に2020年3月より本サービスの提供を開始し、対象車種を順次拡大してまいります。

両社は、コネクティッドカーから取得するデータを活用し、「安全・安心なクルマ社会の実現」に向けた取り組みを引き続き共に進めてまいります。

※1 コネクティッドカー：走行データが取得できる車載通信機（DCM: Data Communication Module）を搭載した車両

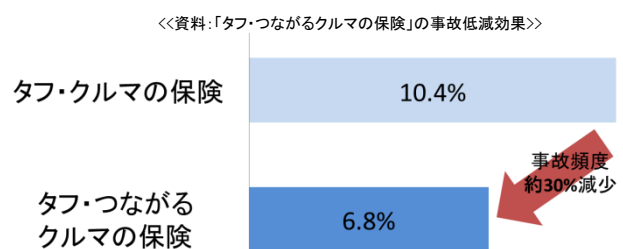
※2 テレマティクス：「テレコミュニケーション」と「インフォマティクス」を組み合わせた造語。カーナビゲーションやGPS等と移動体通信システムを利用して、さまざまな情報やサービスをご提供する仕組み

※3 トヨタ車は2018年6月以降に販売を開始したコネクティッドカー、レクサス車は2015年9月以降に販売を開始した全車が対象。
対象車種の詳細はあいおいニッセイ同和損保の代理店または、トヨタ販売店にお問い合わせください。

1. 背景

昨今のクルマのコネクティッド技術等の進化により、コネクティッドカーを通じて車両データを収集・活用し、新たなモビリティサービスの提供が可能となっています。両社は、コネクティッドカーから取得できる走行データをもとに、「お客さまの安全運転を支援する機能」や「安全運転による保険料割引」などのサービスを提供する国内初の運転挙動反映型テレマティクス自動車保険「タフ・つながるクルマの保険」^{※4}を2017年に共同で開発し、2018年1月より販売を開始しました。

「タフ・つながるクルマの保険」は2019年11月末時点で2万5000件を超えるお客さまにご加入いただいております。同社の自動車保険「タフ・クルマの保険」加入者と比較すると、事故頻度が約3割抑えられており、事故低減効果が確認されています。



（注）2018年4月以降始期契約について、2019年6月までに発生した事故を集計（同一車種の契約を対象として集計）

上記のような事故低減の取り組みに加え、万が一お客さまが事故に遭われた際にも迅速かつ適切に事故解決をサポートするため、両社は本サービスシステムを共同で開発しました。

※4 タフ・つながるクルマの保険：トヨタ販売店向けは「トヨタつながるクルマの保険プラン」、レクサス店向けは「G-Link 連動自動車保険」の商品名で展開しており、2018年6月以降に販売を開始したトヨタのコネクティッドカーと2015年9月以降に販売を開始したレクサス全車を対象としています。
対象車種の詳細はあいおいニッセイ同和損保の代理店または、トヨタ販売店にお問い合わせください

2. 概要

従来の事故対応は、電話や書類のやりとりなどを通してお客さまから伺った情報をもとに、事故相手との過失・示談交渉を進めています。

本サービスでは、トヨタのCONNECTEDカーから得られる走行データを活用することで、保険会社が正確かつ客観的に事故状況を把握することが可能です。これにより、事故に遭われたお客さまの保険金請求手続きのご負担を大幅に軽減します。

また、あいおいニッセイ同和損保の24時間365日事故対応サービス「I'm ZIDAN」^{※5}に加え、トヨタのCONNECTEDカーとあいおいニッセイ同和損保が24時間365日つながることにより、迅速な事故対応を実現します。

なお、本サービスは「タフ・つながるクルマの保険」の加入者向け新サービスとして提供されます。

※5 I'm ZIDAN：夜間休日でも「責任割合交渉」や「示談交渉」などの専門的な事故対応が可能となるサービス

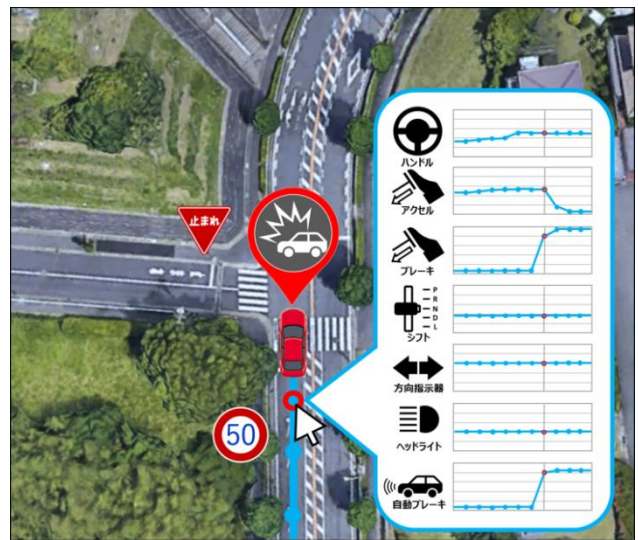
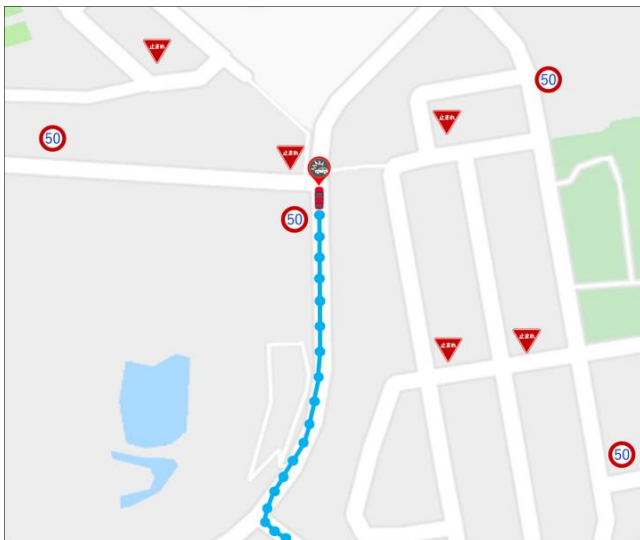
《ご参考：サービス提供のイメージ》



【サービス内容】

① 運行軌跡のマッピング・運転挙動の可視化

CONNECTEDカーから取得する情報をもとに事故に至るまでの走行軌跡、アクセル・ブレーキ、シフトポジション、ステアリングの操作状況、指示器、安全装置といった各種装備の作動状況に関する車両データを可視化することにより、お客さまが事故状況を説明する負担の軽減および迅速な事故解決を実現します。



【コネクティッドカーの情報を活用した事故対応事例】

事例1

対向車との接触事故で、相手方はお客さまが急ハンドルをきりセンターラインを越えて進入してきたと主張。しかし、コネクティッドカーから得られる車両情報により、お客さまが急ハンドルをきられていないことを確認でき、早期解決となりました。



事例2

駐車場におけるお車同士の事故で、相手方はお互いが動いていたと主張。しかし、コネクティッドカーから得られる車両情報により、お客さまはブレーキを踏んで停止していたことが確認でき、早期解決となりました。



② AI を活用した事故検知

事故による大きな衝撃を検知した際「自動通報受信デスク」からお客さまに安否確認のご連絡を実施し、必要な諸手配を行う「緊急時リアルタイムサポート」にAIを活用します。本機能は、あいおいニッセイ同和損保がテレマティクス端末搭載車両の事故データと、衝突実験により取得した衝撃データを機械学習することにより構築したアルゴリズムを活用しています。これにより事故の発生・事故地点を適切に認知することが可能となり、迅速な事故受付を実現します。



以上